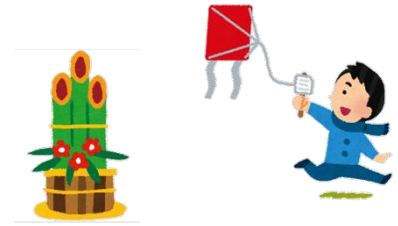


「新しい年を迎えて」



【激動の今を生きる子供たちに】

先月発表された、その年の世相を漢字一文字で表す「2022年 今年の漢字」が『戦』であったことは記憶に新しいところです。ロシアのウクライナ侵攻による「戦」争の悲惨さ・愚かさを目の当たりにした1年であり、スポーツでの熱「戦」・挑「戦」にも熱い視線が注がれた1年でもありました。

コロナとの戦いも既に3年。今年度より、県内の学校では、子供たちのために「やりたいこと、やらねばならないことをやりきる」という意識の下で、日々の教育活動を推進いただいています。子供たち一人一人にとっての一度きりの学校生活が、多彩で充実したものとなるよう、コロナに対するこれまでの知見・経験を生かし、各学校において工夫した取組が行われることが何より望まれます。

【県学力診断調査の目指すところ】

2学期末に実施した県学力診断調査ですが、平成24年度に開始以来、小学5年生は4教科（今回から5教科）、中学2年生は5教科で調査を行ってきました。これには大きく二つのねらいがあります。

- 各教科における児童生徒一人一人の学力を正確に把握し、成果や課題をその後の指導に生かすこと
- 具体的な授業場面を想起させる問題の提示により、授業改善の意識を高めること

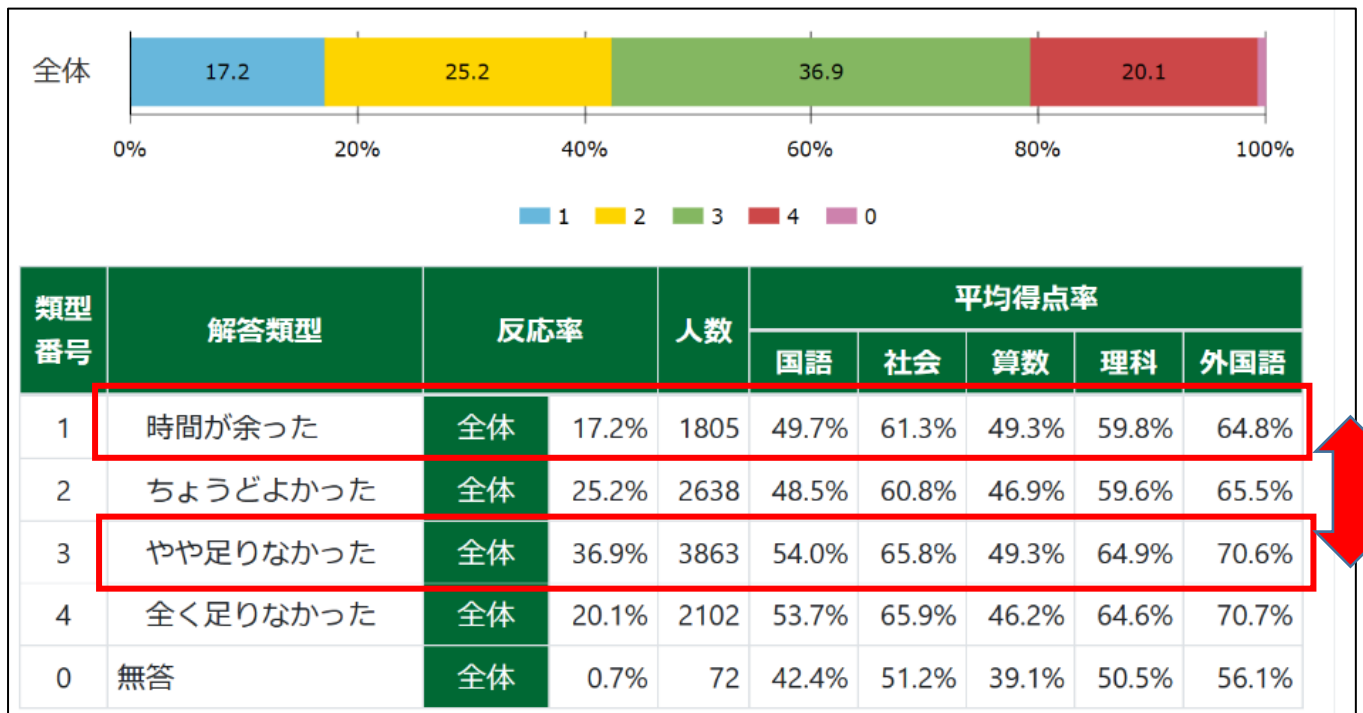
一つ目のねらいは、愛媛の全ての子供たちに全ての教科において必要な力を身に付けさせるといふ愛媛県の学力向上に関する強い意志の表れであり、教科を絞って実施される全国学力・学習状況調査とは大きく違うところです。二つ目のねらいは、本県における継続した課題である「分かる」授業が、県内のどの学校でも、どの教室でも行われることを目指すものです。

【県学力診断調査におけるクロス集計】

この調査では、EILSを活用することでデジタルの強みを生かして、初めて小学校において英語を追加し、さらに児童生徒質問紙調査も同時に行いました。

質問紙調査と教科調査をクロス集計することで、これまでと違った角度からの分析が可能となっています。

例えば、小学5年生で【解答時間は十分でしたか（算数）】の回答と各教科の得点をクロス集計した結果は次のとおりです。



一般的に考えると、「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した児童は「足りなかった」と回答した児童よりも得点が高いと予想されますが、実際は「やや足りなかった」と回答した児童が、どの教科においても得点が高いという結果でした。この結果をどう見ればよいのでしょうか。「時間が余った」と回答した児童は、どのように解けばよいか分からず、手も足も出なかったのかもしれませんが。翻って、時間が足りないと感じたのは、解き終わった後、しっかり見直す習慣が身に付いている児童かも……。この結果をもとに授業をどう工夫すればよいのか、どんな声かけをすればよいのか。他のクロス集計の結果やその他の分析資料も参考に授業改善に取り組んでください。

【今後のE I L S活用】

今後、読書量ランキングや人気書籍ランキング、感想・書評の共有等が可能になる電子版「みきゃん通帳」を、今年度内にE I L Sに追加します。また、ICT活用の基盤となるタイピング力の向上を図る「タイピング検定」アプリも追加し、2月中にタイピングコンテストを実施する予定です。

ICTを活用した教育活動が更に推進されていく中で、愛媛の子供たちの学びの充実や先生方の指導力向上、業務縮減に向け、E I L Sが効果的に活用されることを期待しています。

【これからの愛媛の学力向上】

一方、これまでのように鉛筆で紙に書くことや実際に手を動かして体で覚えることなど、いわゆるアナログのよさの部分が、日々の教育実践の中で、先生方の実感として明確になってきているのではないのでしょうか。また、子供たち

一人一人にじっくりと関わる時間の創出は叶っているでしょうか。

県教育委員会としては、授業等で活用できるＣＢＴなど、教育におけるデジタルの活用を全国に先駆けて推進してきましたが、同時に「伝統ある愛媛教育と適切なＩＣＴ活用のベストミックス」という理念も掲げてきました。早くから授業実践に取り入れ、ＩＣＴ指導力を身に付けられている愛媛の先生方だからこそ、どの自治体よりも早く、勘や憶測ではない、本物のデジタルとアナログそれぞれのよさを効果的に活用したハイブリッド教育を推進していただきたいものです。そのために、世界や国の先進的な研究結果等もどんどんお伝えしていく予定です。

今年は兎年です。愛媛教育にとっても更なる飛躍の年となりますよう、よろしく願いいたします。